

▲ 中国社会科学院考古研究所との共同研究

昨年8月、奈文研が中国社会科学院考古研究所との間で友好共同研究議定書を調印したことはすでにお伝えしたところです。その一環として、このほど劉慶柱所長以下5名の研究者が共同研究のために来日されました。一行は共同研究のあと、所内の新鋭施設や各地の遺跡・博物館などを見学し、3月15日に成田国際空港から帰国の途に就きました。



漢長安城出土玉牒

この間、2月27日には所内で考古研究所の最新発掘成果についての報告会があり、3月9日には、漢長安城での5年間の日中共同発掘調査成果について記念講演会をおこないました。町田所長のあいさつに続いて、劉慶柱所長「漢長安城桂宮出土の玉牒研究」、李毓芳研究員「漢長安城桂宮の発見と研究」、張建峰所員「漢長安城桂宮第4号建築遺構の発掘」の講演がありました。OHP、スライドを用いた話は分かりやすく、好評でした。とくに、劉所長が講演した玉牒は、中国最初の出土品であるだけでなく、新の王莽が泰山で封禪を試みた史料を裏づける貴重な発見として、専門家の驚きを誘っていました。

(平城宮跡発掘調査部)